

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-123769

(P2005-123769A)

(43) 公開日 平成17年5月12日(2005.5.12)

(51) Int.Cl.⁷

H04N 1/00

G03G 21/00

G03G 21/04

F I

H04N 1/00

G03G 21/00 376

G03G 21/00 396

G03G 21/00 390

テーマコード (参考)

2H027

5C062

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2003-354683 (P2003-354683)

(22) 出願日 平成15年10月15日 (2003.10.15)

(71) 出願人 000006747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(74) 代理人 100083231

弁理士 紋田 誠

(74) 代理人 100112287

弁理士 逸見 輝雄

(72) 発明者 田窪 仁

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

Fターム(参考) 2H027 DA28 DA32 DA36 DE04 DE07

DE09 EC06 ED04 ED06 EE01

EE02 EE07 EE10 EF09 EH06

EJ03 EJ04 EJ13 GA30 GA34

GA54 HA01 ZA07

最終頁に続く

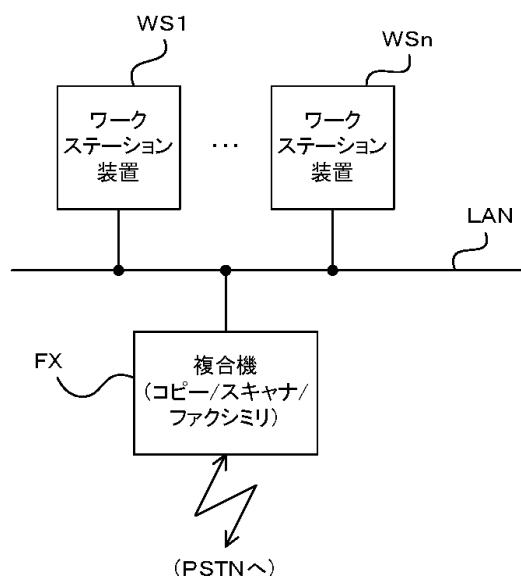
(54) 【発明の名称】 複合機

(57) 【要約】

【課題】 ユーザが適切な設定操作を行えるようにした複合機を提供すること目的とする。

【解決手段】 複数の装置機能を1つの装置本体に統合してなる複合機において、上記複数の装置機能の制御処理を統合化した1つのソフトウェアで実現するシステム制御手段を備え、いずれかの装置機能について、ユーザが対応する設定操作を入力する際、当該設定操作入力を許可するか否かを判定するようにした。これにより、ユーザが操作しようとする設定操作の内容に関係のない動作を行っている場合には、当該設定操作を行うことができるので、ユーザの使い勝手が大幅に向上するという効果を得る。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の装置機能を 1 つの装置本体に統合してなる複合機において、
上記複数の装置機能の制御処理を統合化した 1 つのソフトウェアで実現するシステム制御手段を備え、

いずれかの装置機能について、ユーザが対応する設定操作を入力する際、当該設定操作入力を許可するか否かを判定するようにしたことを特徴とする複合機。

【請求項 2】

複数の装置機能を 1 つの装置本体に統合してなる複合機において、
上記複数の装置機能の制御処理を統合化した 1 つのソフトウェアで実現するシステム制御手段を備え、

いずれかの装置機能について、ユーザが対応する設定操作を入力する際、そのときに選択された装置機能処理を実行中でない場合に限り、当該設定操作入力を許可するようにしたことを特徴とする複合機。

【請求項 3】

前記設定操作は、通常設定に関するものと、保守設定に関するものの 2 種類があり、保守設定に関する設定操作が選択された場合には、操作権に関する認証を行うようにしたことを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載の複合機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、複数の装置機能を 1 つの装置本体に統合してなる複合機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、複数の装置機能を 1 つの装置本体に統合してなる複合機は、例えば、コピー、ファクシミリ、スキャナ、および、プリンタそれぞれの装置機能ごとにアプリケーションプログラムがそれぞれ別々につくられていた。

【0003】

一方、近年では、複数の機能を 1 つのアプリケーションプログラムに統合したものが考案されている。

【0004】

また、複合機には動作時のデフォルト値、時刻、および、宛先表など各種の設定操作をユーザが行うことができる設定モードがあり、この設定モードでは動作に関係する値が変更できるので、動作中には設定モードに入れないようにしたり、設定モード中には動作しないようにしている。

【0005】

機能ごとにアプリケーションプログラムが動作している場合は、設定モードに入れるかどうかは各アプリケーション毎に判断ができ、例えば、ファクシミリ機能が動いている時でもコピー機能が動いていなければコピー機能の設定モードに入って設定を変更したりすることが可能である。

【特許文献 1】特開 2003-274077 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、複数の装置機能処理を統合化した 1 つのアプリケーションプログラム（ソフトウェア）では、ユーザが操作しようとする設定内容とは関係の無い設定項目であってもアプリケーションプログラムが動作中であるために、実行できないという不具合を生じていた。例えば、ファクシミリ動作中にコピーに関連する設定を変更することができないといった不都合が生じてしまう。

【0007】

10

20

30

40

50

本発明は、かかる実情に鑑みてなされたものであり、ユーザが適切な設定操作を行えるようにした複合機を提供すること目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明は、複数の装置機能を1つの装置本体に統合してなる複合機において、上記複数の装置機能の制御処理を統合化した1つのソフトウェアで実現するシステム制御手段を備え、いずれかの装置機能について、ユーザが対応する設定操作を入力する際、当該設定操作入力を許可するか否かを判定するようにしたものである。

【0009】

また、複数の装置機能を1つの装置本体に統合してなる複合機において、上記複数の装置機能の制御処理を統合化した1つのソフトウェアで実現するシステム制御手段を備え、いずれかの装置機能について、ユーザが対応する設定操作を入力する際、そのときに選択された装置機能処理を実行中でない場合に限り、当該設定操作入力を許可するようにしたものである。

【0010】

また、前記設定操作は、通常設定に関するものと、保守設定に関するものの2種類があり、保守設定に関する設定操作が選択された場合には、操作権に関する認証を行うようにしたものである。

【発明の効果】

【0011】

したがって、本発明によれば、ユーザが操作しようとする設定操作の内容に関係のない動作を行っている場合には、当該設定操作を行うことができるので、ユーザの使い勝手が大幅に向上するという効果を得る。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

以下、添付図面を参照しながら、本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【0013】

図1は、本発明の一実施例にかかる装置システムを示している。

【0014】

同図において、ローカルエリアネットワークLANには、複数のワークステーション装置WS1～WSn、および、複合機FXが接続されている。

【0015】

この複合機FXは、コピー装置機能、スキャナ装置機能、および、ファクシミリ装置機能を備えており、スキャナ装置機能とファクシミリ装置機能は、ローカルエリアネットワークLANを介し、ワークステーション装置WS1～WSnより利用可能になっている。

【0016】

図2は、複合機FXの構成例を示している。

【0017】

同図において、システム制御部1は、この複合機FXの各部の制御処理、コピー装置機能制御処理、スキャナ装置機能制御処理、および、ファクシミリ装置機能制御処理などの各種制御処理を行うものである。ここで、システム制御部1が実行するコピー装置機能制御処理、スキャナ装置機能制御処理、および、ファクシミリ装置機能制御処理は、1つの装置機能アプリケーションプログラム（ソフトウェア）で実行される。

【0018】

また、システムメモリ2は、システム制御部1が実行する制御処理プログラム、および、処理プログラムを実行するときに必要な各種データなどを記憶するとともに、システム制御部1のワークエリアを構成するものであり、パラメータメモリ3は、この複合機FXに固有な各種の情報を記憶するためのものであり、時計回路4は、現在時刻情報を出力するものである。

【0019】

スキャナ 5 は、所定の解像度で原稿画像を読み取るためのものであり、プロッタ 6 は、所定の解像度で画像を記録出力するためのものであり、操作表示部 7 は、この複合機 F X を操作するためのもので、各種の操作キー、および、各種の表示器からなる。

【0020】

符号化復号化部 8 は、画信号を符号化圧縮するとともに、符号化圧縮されている画情報を元の画信号に復号化するためのものであり、画像蓄積装置 9 は、符号化圧縮された状態の画情報を多数記憶するためのものである。

【0021】

グループ 3 ファクシミリモデム 10 は、グループ 3 ファクシミリのモデム機能を実現するためのものであり、伝送手順信号をやりとりするための低速モデム機能（V. 21 モデム）
10 および、おもに画情報をやりとりするための高速モデム機能（V. 17 モデム、V. 34 モデム、V. 29 モデム、V. 27 t e r モデムなど）を備えている。

【0022】

網制御装置 11 は、この複合機 F X をアナログ公衆回線網 P S T N に接続するためのものであり、自動発着信機能を備えている。

【0023】

ローカルエリアネットワークインターフェース回路 12 は、この複合機 F X をローカル
エリアネットワーク L A N に接続するためのものであり、ローカルエリアネットワーク伝
送制御部 13 は、ローカルエリアネットワーク L A N を介して、他のデータ端末装置との
間で種々のデータをやりとりするための各種所定のプロトコルスイートの通信制御処理を
20 実行するためのものである。

【0024】

これらの、システム制御部 1、システムメモリ 2、パラメータメモリ 3、時計回路 4、
スキャナ 5、プロッタ 6、操作表示部 7、符号化復号化部 8、画像蓄積装置 9、グループ
3 ファクシミリモデム 10、網制御装置 11、および、ローカルエリアネットワーク伝送
制御部 13 は、内部バス 14 に接続されており、これらの各要素間でのデータのやりとり
は、主としてこの内部バス 14 を介して行われている。

【0025】

また、網制御装置 11 とグループ 3 ファクシミリモデム 10 との間のデータのやりとり
は、直接行なわれている。
30

【0026】

ここで、本実施例において、基本的には、ローカルエリアネットワーク L A N に接続さ
れている端末相互間でのデータのやりとりは、いわゆる T C P / I P と呼ばれるトランス
ポートレイヤまでの伝送プロトコルと、それ以上の上位レイヤの通信プロトコルとの組み
合わせ（いわゆるプロトコルスイート）が適用して行われる。例えば、電子メールのデー
タのやりとりでは上位レイヤの通信プロトコルとして S M T P（S i m p l e M a i l
T r a n s f e r P r o t o c o l）という通信プロトコルが適用される。

【0027】

そして、複合機 F X の機能のうち、例えば、ネットワークスキャナ機能を利用すると、
複合機 F X のスキャナ 5 で読み取って得た画像データを、ローカルエリアネットワーク L
A N を介して、指定されたワークステーション装置 W S 1 ~ W S n へ送信することができ
る。また、ワークステーション装置 W S 1 ~ W S n へ送信する画像データの画像形式（画
像フォーマット；T I F F，J P E G など）を適宜に指定することもできる。
40

【0028】

ここで、複合機 F X からワークステーション装置 W S 1 ~ W S n へのデータ送信につい
ては、電子メールを利用したり、適宜なピア・ツー・ピアのプロトコルを利用することが
できる。

【0029】

また、複合機 F X の機能のうち、例えば、ネットワークファクシミリ機能を利用すると
、ワークステーション装置 W S 1 ~ W S n で作成した送信文書を、ローカルエリアネット
50

ワークLANを介して複合機FXへ送信するとともに、ワークステーション装置WS1～WSnより複合機FXへ送信宛先を指定し、その指定した送信宛先に対し、送信文書をファクシミリ送信するように指令することができる。

【0030】

ここで、ワークステーション装置WS1～WSnから複合機FXへのデータ伝送は、例えば、FTPを利用したり、適宜なピア・ツー・ピアのプロトコルを利用することができる。

【0031】

さて、本実施例では、ユーザは、複合機FXの操作表示部7を適宜に操作することで、設定モードを要求することができ、コピー装置機能、スキャナ装置機能、および、ファクシミリ装置機能に関する種々の設定操作を行うことができる。なお、これらの各装置機能に関する設定機能の内容は、あらかじめそれぞれの装置機能について定められている。

【0032】

図3は、ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部1が実行する処理の一例を示している。なお、この処理は、基本的には、上述した装置機能アプリケーションプログラムに組み込まれているものである。

【0033】

まず、ユーザが設定モードを要求操作を行うと（処理101）、指定された装置機能を判定する（処理102）。次に、その判定した装置機能がコピー装置機能であるかどうかを調べ（判断103）、コピー装置機能である場合には（判断103の結果がYES）、対応するコピー装置機能についての設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理104、判断105のNOLープ）。

【0034】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断105の結果がYESになると、設定モードから通常の動作モードへ復帰し（処理106）、このときの処理を終了する。

【0035】

また、処理102で判定した装置機能がコピー装置機能ではなく、判断103の結果がNOになるとときには、スキャナ装置機能であるかどうかを調べる（判断107）。

【0036】

判断107の結果がYESになるとときには、対応するスキャナ装置機能についての設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理108、判断109のNOLープ）。

【0037】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断109の結果がYESになると、処理106へ移行し、設定モードから通常の動作モードへ復帰して、このときの処理を終了する。

【0038】

また、処理102で判定した装置機能がコピー装置機能でもスキャナ装置機能でもなく、判断107の結果がNOになるとときには、処理102で判定した装置機能は、ファクシミリ装置機能である。そこで、この場合には、対応するファクシミリ装置機能についての設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理110、判断111のNOLープ）。

【0039】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断111の結果がYESになると、処理106へ移行し、設定モードから通常の動作モードへ復帰して、このときの処理を終了する。

【0040】

ところで、コピー装置機能、ファクシミリ装置機能（ファクシミリ送信機能およびファクシミリ受信機能）、および、スキャナ装置機能で必要とする入力リソースと、出力リソースは、例えば、図4に示したように一定している。

【0041】

一方、複合機FXは、リソースの競合がない限り、複数の装置機能を同時並列的に実行

10

20

30

40

50

することが可能であり、上述した装置機能アプリケーションプログラムでは、このような動作を行うことができる。

【0042】

また、入力リソースおよび出力リソースの占有状況に基づいて、どの装置機能が現在実行されているかを判断することができる。

【0043】

そこで、上述した設定モードの作業を行う際、入力リソースおよび出力リソースの占有状況に基づいて、どの装置機能が現在実行されているかを判断し、要求された設定モードの内容と装置機能が競合する場合には、当該設定モード要求操作を禁止する一方、要求された設定モードの内容と装置機能が競合する場合しない場合には、当該設定モード要求操作を許可するようにすることで、要求された設定モードを適切に実行することができる。

【0044】

図5～図7は、この場合に、ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部1が実行する処理の一例を示している。なお、この処理は、基本的には、上述した装置機能アプリケーションプログラムに組み込まれているものである。

【0045】

まず、ユーザが設定モードを要求操作を行うと（処理201）、指定された装置機能を判定する（処理202）。次に、その判定した装置機能がコピー装置機能であるかどうかを調べ（判断203）、コピー装置機能である場合には（判断203の結果がYES）、上述したように入力リソースと出力リソースの占有状況を調べて、コピー装置機能が使用中であるかどうかを調べる（処理204）。

【0046】

コピー装置機能が使用中であり、判断205の結果がYESになるとときには、ユーザに対して、要求された設定モードの操作を実行できない旨を、操作表示部7に表示して（処理206）、この処理を終了する。

【0047】

また、コピー装置機能が使用中ではなく、判断205の結果がNOになるとときには、対応するコピー装置機能についての設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理207、判断208のNOループ）。

【0048】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断208の結果がYESになると、設定モードから通常の動作モードへ復帰し（処理209）、このときの処理を終了する。

【0049】

また、処理202で判定した装置機能がコピー装置機能ではなく、判断203の結果がNOになるとときには、スキャナ装置機能であるかどうかを調べる（判断210）。

【0050】

判断210の結果がYESになるとときには、上述したように入力リソースと出力リソースの占有状況を調べて、スキャナ装置機能が使用中であるかどうかを調べる（処理211）。

【0051】

スキャナ装置機能が使用中であり、判断212の結果がYESになるとときには、ユーザに対して、要求された設定モードの操作を実行できない旨を、操作表示部7に表示して（処理213）、この処理を終了する。

【0052】

また、スキャナ装置機能が使用中ではなく、判断205の結果がNOになるとときには、対応するスキャナ装置機能についての設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理214、判断215のNOループ）。

【0053】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断215の結果がYESになると、設定モードから通常の動作モードへ復帰して（処理216）、このときの処理を終了する。

【0054】

また、処理202で判定した装置機能がコピー装置機能でもスキャナ装置機能でもなく、判断210の結果がNOになるとときには、処理202で判定した装置機能は、ファクシミリ装置機能である。

【0055】

そこで、この場合には、上述したように入力リソースと出力リソースの占有状況を調べて、ファクシミリ装置機能（ファクシミリ送信機能またはファクシミリ受信機能）が使用中であるかどうかを調べる（処理221）。

【0056】

ファクシミリ装置機能が使用中であり、判断222の結果がYESになるとときには、ユーザに対して、要求された設定モードの操作を実行できない旨を、操作表示部7に表示して（処理223）、この処理を終了する。 10

【0057】

また、ファクシミリ装置機能が使用中ではなく、判断222の結果がNOになるとときには、対応するファクシミリ装置機能についての設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理224、判断225のNOループ）。

【0058】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断225の結果がYESになると、設定モードから通常の動作モードへ復帰して（処理226）、このときの処理を終了する。

【0059】

このようにして、本実施例では、ユーザが設定操作を要求した装置機能が使用されている場合には、当該設定操作を許可せず、ユーザが設定操作を要求した装置機能が使用されていない場合に限って、当該設定操作を許可するようにしているので、適切な設定操作が可能となる。 20

【0060】

ところで、設定モードで設定操作可能な項目については、通常のユーザが操作可能な項目と、特別なユーザ、例えば、サービスマンのみが操作可能な項目に分かれている場合がある。なお、これらの項目およびその区別については、それぞれの装置機能についてあらかじめ適宜に設定指されている。

【0061】

図8～図10は、この場合に、ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部1が実行する処理の一例を示している。なお、この処理は、基本的には、上述した装置機能アプリケーションプログラムに組み込まれているものである。 30

【0062】

まず、ユーザが設定モードを要求操作を行うと（処理301）、指定された装置機能を判定する（処理302）。次に、その判定した装置機能がコピー装置機能であるかどうかを調べ（判断303）、コピー装置機能である場合には（判断303の結果がYES）、上述したように入力リソースと出力リソースの占有状況を調べて、コピー装置機能が使用中であるかどうかを調べる（処理304）。

【0063】

コピー装置機能が使用中であり、判断305の結果がYESになるとときには、ユーザに対して、要求された設定モードの操作を実行できない旨を、操作表示部7に表示して（処理306）、この処理を終了する。 40

【0064】

また、コピー装置機能が使用中ではなく、判断305の結果がNOになるとときには、ユーザに対して、実行する設定モードが通常モードであるか保守モードであるかを問い合わせる（処理307）。ここで、通常モードとは、サービスマンではない通常のユーザに許可されている設定項目を設定操作できる設定モードをあらわし、また、保守モードとは、サービスマンに許可されている設定項目を設定操作できる設定モードをあらわす。

【0065】

次いで、そのときに指定された設定モードが通常モードであるか否かを調べる（判断 308）。判断 308 の結果が Y E S になるとときには、対応するコピー装置機能についての通常モードの設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理 309、判断 310 の N O ループ）。

【0066】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断 310 の結果が Y E S になると、設定モードから通常の動作モードへ復帰し（処理 311）、このときの処理を終了する。

【0067】

また、処理 307 で指定された設定モードが、保守モードであり、判断 308 の結果が N O になるとときには、対応するコピー装置機能についての保守モードの設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理 312、判断 313 の N O ループ）。 10

【0068】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断 313 の結果が Y E S になると、処理 311 へ移行して、設定モードから通常の動作モードへ復帰し、このときの処理を終了する。

【0069】

また、処理 302 で判定した装置機能がコピー装置機能ではなく、判断 303 の結果が N O になるとときには、スキャナ装置機能であるかどうかを調べる（判断 315）。 20

【0070】

判断 315 の結果が Y E S になるとときには、上述したように入力リソースと出力リソースの占有状況を調べて、スキャナ装置機能が使用中であるかどうかを調べる（処理 316）。 20

【0071】

スキャナ装置機能が使用中であり、判断 317 の結果が Y E S になるとときには、ユーザに対して、要求された設定モードの操作を実行できない旨を、操作表示部 7 に表示して（処理 318）、この処理を終了する。

【0072】

また、スキャナ装置機能が使用中ではなく、判断 317 の結果が N O になるとときには、ユーザに対して、実行する設定モードが通常モードであるか保守モードであるかを問い合わせる（処理 319）。 30

【0073】

次いで、そのときに指定された設定モードが通常モードであるか否かを調べる（判断 320）。指定された設定モードが通常モードであり、判断 320 の結果が Y E S になるとときには、対応するスキャナ装置機能についての通常モードの設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理 321、判断 322 の N O ループ）。

【0074】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断 322 の結果が Y E S になると、設定モードから通常の動作モードへ復帰して（処理 323）、このときの処理を終了する。

【0075】

また、処理 319 で指定された設定モードが保守モードであり、判断 320 の結果が N O になるとときには、対応するスキャナ装置機能についての保守モードの設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理 324、判断 325 の N O ループ）。 40

【0076】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断 325 の結果が Y E S になると、処理 323 へ移行し、設定モードから通常の動作モードへ復帰して、このときの処理を終了する。

【0077】

また、処理 302 で判定した装置機能がコピー装置機能でもスキャナ装置機能でもなく、判断 315 の結果が N O になるとときには、処理 302 で判定した装置機能は、ファクシミリ装置機能である。

【0078】

そこで、この場合には、上述したように入力リソースと出力リソースの占有状況を調べ 50

て、ファクシミリ装置機能（ファクシミリ送信機能またはファクシミリ受信機能）が使用中であるかどうかを調べる（処理 3 3 0）。

【0 0 7 9】

ファクシミリ装置機能が使用中であり、判断 3 3 1 の結果が Y E S になるとときには、ユーザに対して、要求された設定モードの操作を実行できない旨を、操作表示部 7 に表示して（処理 3 3 2）、この処理を終了する。

【0 0 8 0】

また、ファクシミリ装置機能が使用中ではなく、判断 3 3 1 の結果が N O になるとときには、ユーザに対して、実行する設定モードが通常モードであるか保守モードであるかを問い合わせる（処理 3 3 3）。

10

【0 0 8 1】

次いで、そのときに指定された設定モードが通常モードであるか否かを調べる（判断 3 3 4）。指定された設定モードが通常モードであり、判断 3 3 4 の結果が Y E S になるとときには、対応するファクシミリ装置機能についての通常モードの設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理 3 3 5、判断 3 3 6 の N O ループ）。

【0 0 8 2】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断 3 3 6 の結果が Y E S になると、設定モードから通常の動作モードへ復帰して（処理 3 3 7）、このときの処理を終了する。

【0 0 8 3】

また、処理 3 3 3 で指定された設定モードが保守モードであり、判断 3 3 4 の結果が N O になるとときには、対応するファクシミリ装置機能についての保守モードの設定モード処理を、ユーザの設定操作が終了するまで行う（処理 3 3 8、判断 3 3 9 の N O ループ）。

20

【0 0 8 4】

そして、ユーザが設定操作を終了して、判断 3 3 9 の結果が Y E S になると、処理 3 3 7 へ移行し、設定モードから通常の動作モードへ復帰して、このときの処理を終了する。

【0 0 8 5】

なお、上述した処理処理 3 0 7、3 1 9、3 3 3 において、設定の種類を問い合わせる際、保守モードが指定された場合には、適宜な認証を行い、当該認証を通過した場合のみ、次の処理ステップに進むように制御することもできる。

【0 0 8 6】

ところで、上述した実施例では、複合機 F X として、コピー装置機能、スキャナ装置機能、および、ファクシミリ装置機能が統合された場合について説明したが、それ以外の装置機能の統合態様を備えた複合機についても、本発明を同様に適用することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0 0 8 7】

【図 1】本発明の一実施例にかかる装置システムを示したブロック図。

【図 2】複合機 F X の構成例を示したブロック図。

【図 3】ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部 1 が実行する処理の一例を示したフローチャート。

40

【図 4】各装置機能と、占有する入力リソースおよび出力リソースとの関係の一例を示した概略図。

【図 5】ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部 1 が実行する処理の他の例を示したフローチャート。

【図 6】ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部 1 が実行する処理の他の例を示したフローチャート（図 5 の続き）。

【図 7】ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部 1 が実行する処理の他の例を示したフローチャート（図 6 の続き）。

【図 8】ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部 1 が実行する処理のさらに他の例を示したフローチャート。

50

【図 9】 ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部 1 が実行する処理のさらに他の例を示したフローチャート（図 8 の続き）。

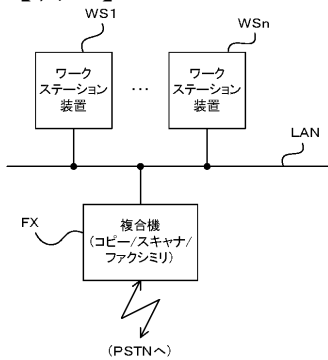
【図 10】 ユーザが設定モードを要求操作したときに、システム制御部 1 が実行する処理のさらに他の例を示したフローチャート（図 9 の続き）。

【符号の説明】

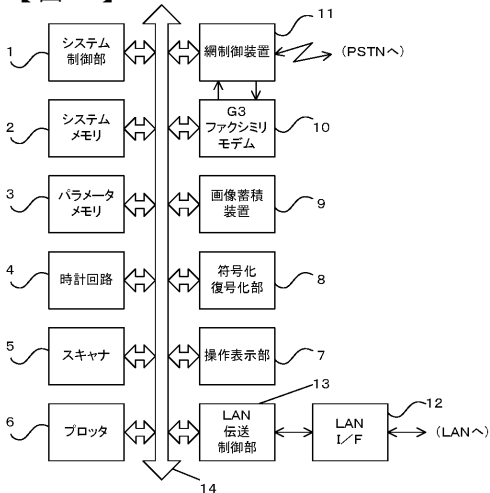
【0088】

- 1 システム制御部
- 2 システムメモリ
- 3 パラメータメモリ

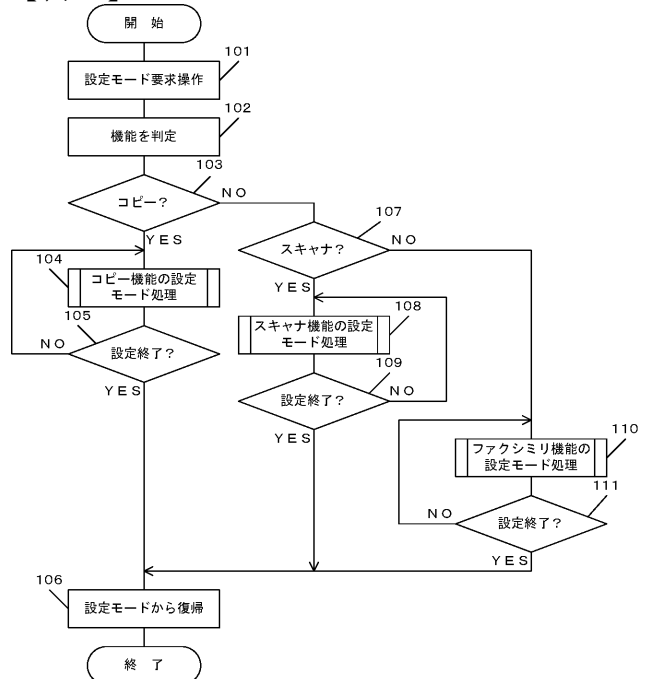
【図 1】



【図 2】



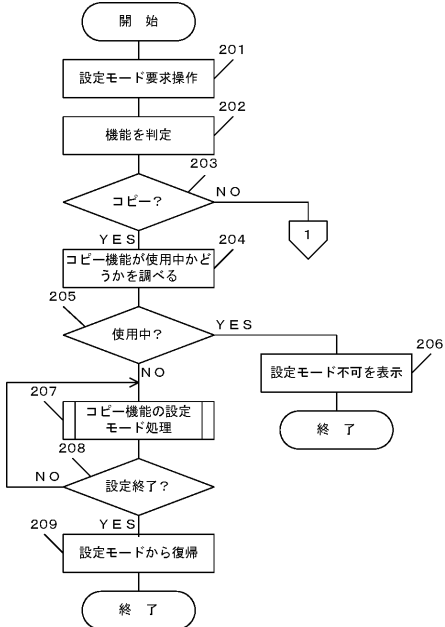
【図 3】



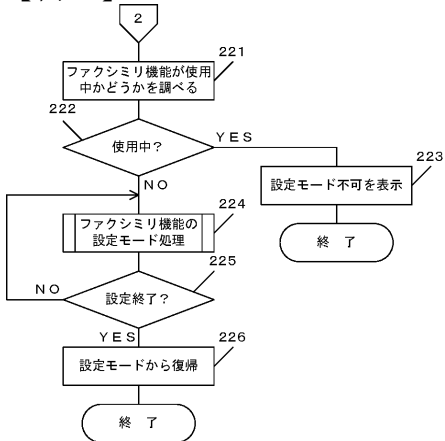
【図 4】

	入力リソース	出力リソース
コピー機能	スキャナ	プロッタ
ファクシミリ送信機能	スキャナ	回線
ファクシミリ受信機能	回線	プロッタ
スキャナ機能	スキャナ	LAN
機能		

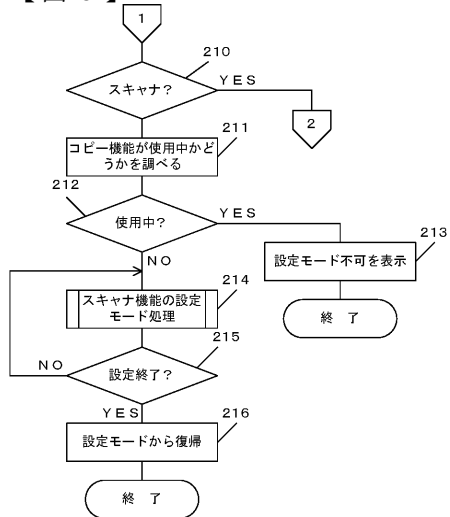
【図 5】



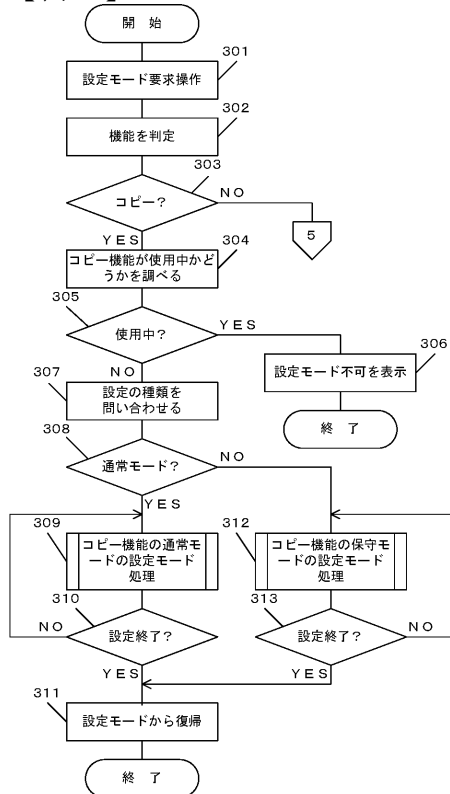
【図 7】



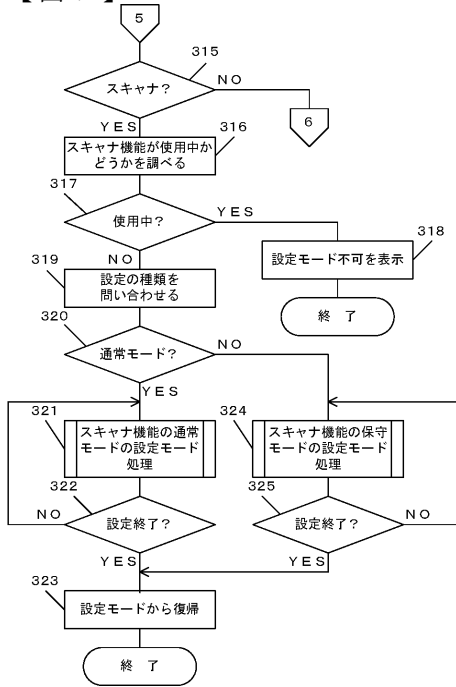
【図 6】



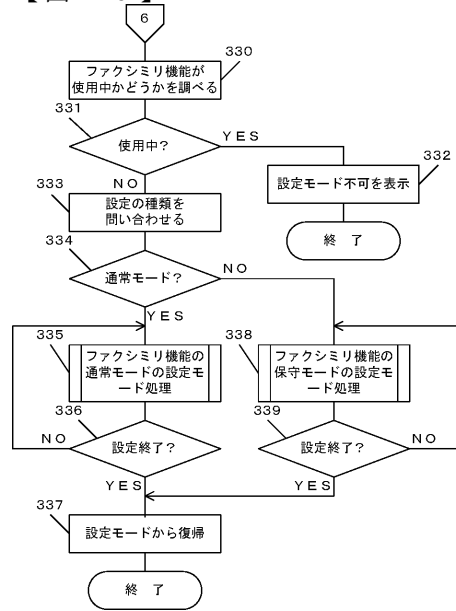
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

Fターム(参考) 5C062 AA05 AA29 AB17 AB21 AB38 AB40 AE15